富三地区 だより

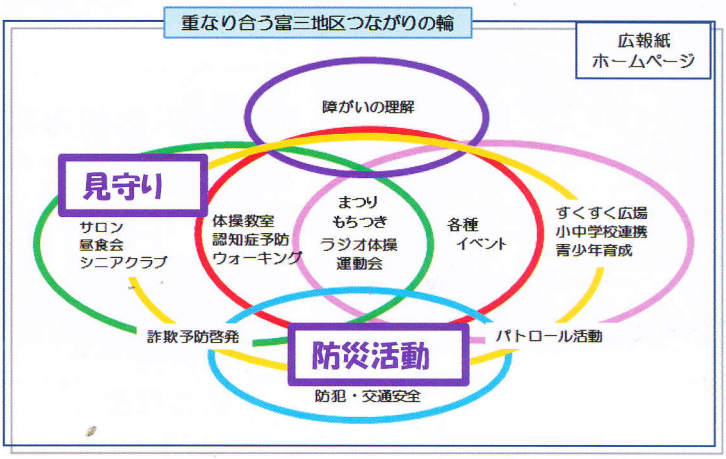
今号のトピックス
○地震から被害を軽減「防災」活動
地域の活動、取り組み
○富岡西の歴史を訪ねて--1

第12号
2017 年 9月
（平成 29年）

編集:発行 富岡第三地区（連合町内会 ／社会福祉協議会／民生児童委員協議会）
（富岡西部町内会・富岡北部町内会・富岡桜ヶ丘町内会・ひかりが丘町内会・西富岡町内会 ）

富三地区計画から

富三地区では、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせる「まち」をつくります



キャッチフレーズ

誰もが安心して暮らせる「まち」にしよう

◆防犯・防災・交通安全に取り組む「まち」

前号に続き、「安心して暮らす」ことに大きく関わることとして、今回は**地震災害に関し、地域の防災減災活動**について取りあげます。

大地震は必ず起こります。これまで、南関東でも多くの地震が発生してきました。元禄そして関東大震災(M8クラス)、さらにその巨大地震の間にM7クラスの地震が多数発生しているのです。南関東では大地震が今後30年以内に起こる確率は70%と極めて高い値になっています。今日明日いつ発生してもおかしくなく、実戦的な災害対策が必要です。

準備はできていますか？ 災害が起きたら、あなたはどうしますか？

［自助］ 1人ひとりが日常から災害をイメージし、対策を立てる。
平常時 ○家財の安全対策、水や食料等の備え、家族の話し合い
災害時 ●想定通り、自分の身を自分で守る、火元確認、避難

［共助］ 最も頼りになるのは地域住民による協力体制です。
すぐに現場に駆けつけられるのはご近所です。
平常時 ○普段からのご近所づきあい
○町内会等の実戦的な防災訓練
災害時 ●安否確認や救出・救護活動、初期消火活動
●災害時の要配慮者の避難支援
●被災情報の把握と伝達、避難所の運営協力 など

富三地区計画から

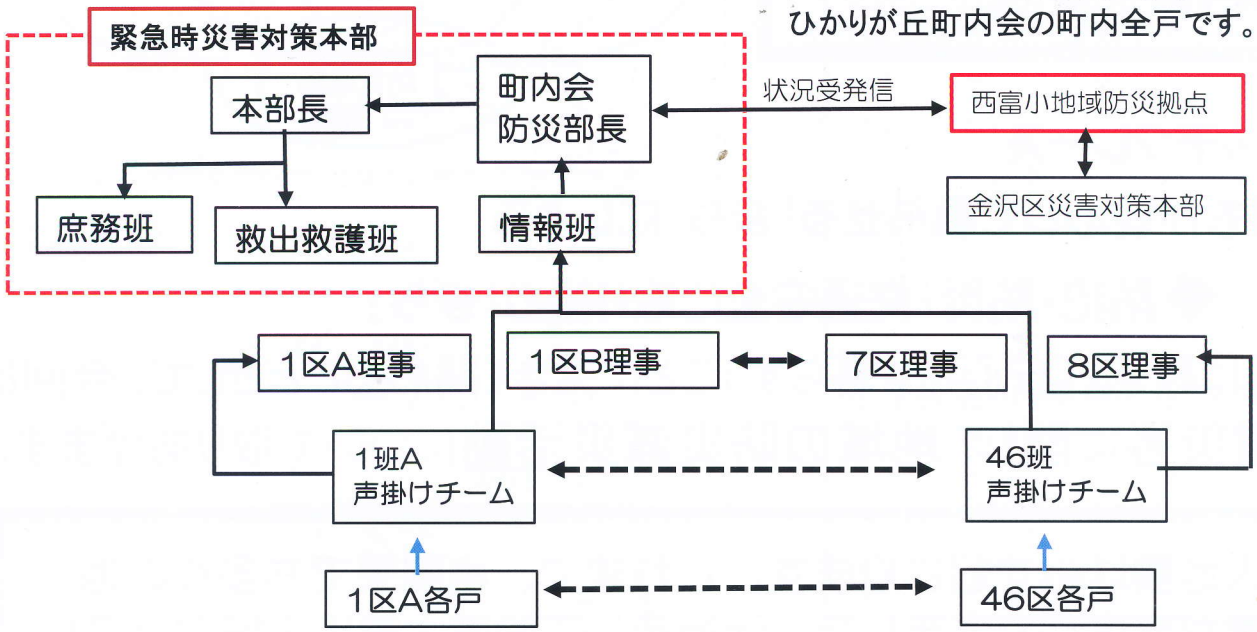
地震発生後、少しでも安心できる生活を送るために、事前の準備を進め、地域のつながりに努めます

地震は、台風などと異なり、事前に情報がなく、突然発生します。人の被害、火災発生が最も心配です。　事前準備を行い、強い地震発生後、声かけ安否確認、救出・救護・避難誘導、初期消火などお互いの助け合いによる取り組みが必要です。今回その組織活動事例を紹介します。

ひかりが丘町内会　災害対応取組み事例

災害時安否確認活動と情報ルート

声掛けチームの安否確認活動の対象は、ひかりが丘町内会の町内全戸です。



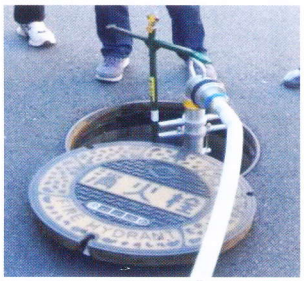
西富岡町内会　災害対応取組み事例

3公園班ごとに安否確認活動

防災本部
第七公園に設置
隊長、防災部長

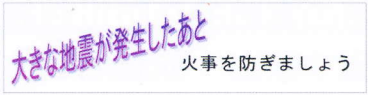
- 第五公園班（班長・副班長・民生委員）
  4組 /5組 援護隊員主体による活動
- 第六公園班（班長・副班長・民生委員）
  1組/2組/3組 援護隊員主体による活動
- 第七公園班（班長・副班長・民生委員）
  6組/7組/8組 援護隊員主体による活動

初期消火



スタンドパイプ式初期消火器具を用いて放水訓練を実施しました。
移動可能であり、軽量化したホースや操作が容易なノズルが特徴です。

町内会の災害対応備品購入促進活動



電源遮断装置の購入斡旋と取付け代行を行いました。

富岡西部町内会　災害対応取組み事例

初期消火放水訓練

坂道や幅の狭い道が多く、7ヵ所の街角の消火栓近くにホース格納庫を常設、放水訓練を行っています。

富岡北部町内会　災害対応取組み事例

防災訓練

金沢消防署富岡出張所において、町内会の防災訓練を行いました。

三角巾の使用説明

AED取り扱い訓練、女性も一生懸命

小型消火器は全員で訓練しました。

富岡桜ヶ丘町内会　災害対応取組み事例

安否確認訓練、防災訓練　(富岡第二公園に自主防災組織本部設置)

*各班(38班)は所定の場所に集合し安否を確認する。連絡の取れない世帯はブロック長)へ報告する。
*班長、ブロック長(11ブロック)は本部へ安否、救助の要請を連絡する。救助活動可能な人は本部に集合し応援する。

本部に集まり、安否確認状況を報告

救命、AED取り扱い訓練

起震車による地震疑似体験訓練

富岡西の歴史を訪ねて-1

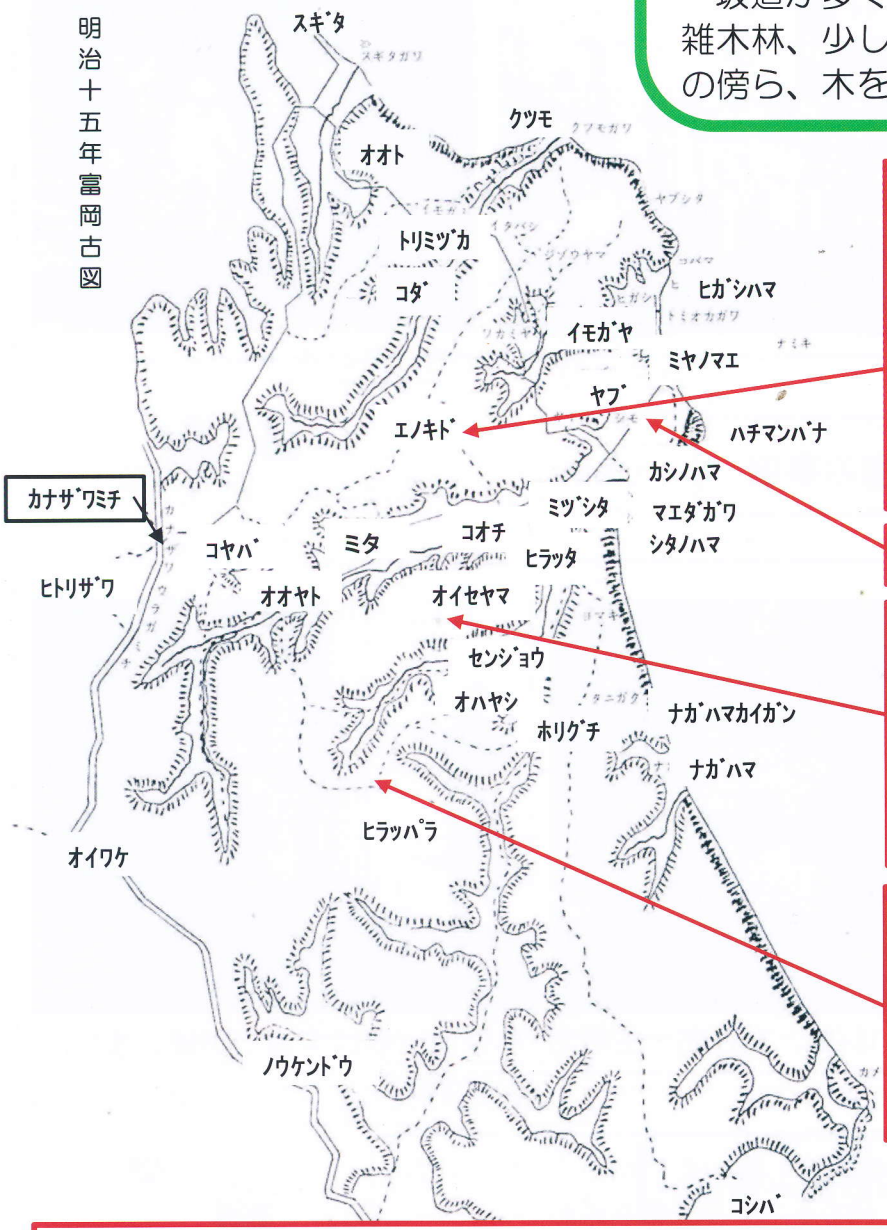
富岡の原風景と昔を知る人の話

吉川政章さん（昭和11年生まれ）の話

先祖代々、富岡に住んでいます。富岡は平坦な場所が少なく、少しの平らな場所は田んぼ、山の中腹に棚田、尾根の上の平らな場所に畑を作っていました。野菜は出荷する前に富岡川で洗って、束ねる作業を手伝っていました。

坂道が多く農作業は厳しかった。左右の山は雑木林、少し深く入ると杉林や松林、父は農業の傍ら、木を伐りだし炭焼きもしていました。

明治十五年富岡古図



小田の谷と耕地（小学校通り一帯）の間に位置する丘を**榎戸（榎堂）**といい富岡一の高所でした。江戸時代にはここに燈明台があり、浦賀水道から江戸に向かう船に灯台の役目をしていたと言われています。

富岡の**中心地**、東端が**八幡山**。

小学校通りの南側の丘（現桜ヶ丘）を**お伊勢山**と呼び、江戸時代にはここに皇大神宮がありました。この丘陵にも美しい枝ぶりの大松が茂っていました。

お伊勢山の南一帯は起伏の少ない丘陵地帯が続き、**御林、平っ原**と呼ばれ、山地や萱場となっていました。今の西富岡、能見台地区です。

参考文献　佐伯隆定 武州富岡史話
真言宗御室派 慶珊寺

富岡村は三方を山に囲まれ一方が海、他村との往来は船もしくは峠道を利用しました。細道を通して人、物、情報が入りましたが、主な物資の輸送ルートは海路でした。

吉川政章さんの話　続き

昭和18年頃の富岡は、駅から富岡小学校あたりまで家が11軒くらい、それから山に向かってぽつんぽつんと家がありました。みんな茅葺きの農家でした。今の16号線を越えたらすぐ海でしたから朝から夕方まで海で遊んでいました。海はきれいで多種の魚がとれ、晩ご飯のおかずにしました。またこの付近は湧き水井戸水も豊富で、この水を汲んで風呂桶にいっぱいにするのは子どもの仕事でした。

吉川政章さんは、富岡第三地区（富岡西2丁目）にお住まいです

発行責任者　佐藤　祥生
編集者　大谷　郁二、浅野　秀子、桒折　勝利、佐藤　克彦、杉浦　千鶴